



編み物教室のほかハーモニカの会なども開く

離れの2階建ての馬小屋もリフォームしています。コンクリート床の1階は、農作業に必要な道具を保管するだけでなく春と秋のみそやちまき作り、そば打ちなど集落の人や友人らが集えるコミュニケーションスペースになっています。

離れもリフォームし活用

1階のリビングなど開口部を広くとり、屋根裏の2階には窓を多く設けて空気が入れ替えられるようにしています。真澄さんは「冬はまきストーブ一つで家中が温まります。夏場は少しエアコンを使う程度。母は手洗いやお風呂も介助なしでできるようにしました」と語ります。



屋根裏に窓を多く付けて空気がこもらないようにしているため、夏は涼しく過ごせる。雨の日は洗濯物干しスペースとしても活用

毎週月曜の午後1時から3時間、手編みが得意な集落の女性が講師を務め、60〜80代の女性7、8人が集まって編み物教室を開き早子さんも参加しています。「このスペースを使って母のために何かやりたいと始めました。集落の皆さんとの交流や手を使うことで脳の活性化にもなっているようです」と真澄さん。編み物の合間には参加者が持ち寄った手作りのお菓子でティータイム。馬小屋は笑い声に包まれます。

2階は6畳と8畳の2間続きの板間。家族や友人・知人らとの会合や宿泊場所として活用されています。

家族が集い、将来の夢描く

真澄さんの1日は午前6時過ぎに鶏8羽の餌やりから始まります。朝食を済ませて8時に早子さんやデイサービスに出掛け後は家事や農作業。隣接する畑ではサツマイモや大根などさまざまな野菜を栽培しています。午後4時すぎに早子さんが帰宅し、夕食では1日の出来事などを話したりして10時に就寝という生活です。

金曜の夜には直さんが来るほか、鹿児島市内に住む長男や長女が月に1、2回、週末に家族で訪れ、4世代9人がそろういます。馬小屋の1階で卓球をしたり、農作業やユニボを使って庭造りしたりして休日を楽しんでいます。庭にピザ窯や屋根付きの五右衛門風呂を造る計画も進んでいます。

「ここに来ると、黒光りする梁や柱に小さいころ行つたじいちゃんの家を思い出

古民家に暮らす

古民家には、懐かしさや温もりが感じられ、心癒やされます。古民家の良さを残しながら、現代のライフスタイルに合わせてリフォームし、地域や自然との触れ合いを楽しむ人が増えています。



週末には4世代が集い、地域や自然との触れ合いを楽しむ



DATA
●床面積:約111㎡
●設計・建築:24カ月



鹿児島市の団体職員・八重尾直さん(62)は、永吉川沿いに立つ古民家付きの土地を2011年に購入。廃屋同然だった家を再生し、14年9月から妻の真澄さん(60)、真澄さんの母親の瀬戸早子さん(82)が住み、八重尾さんは週末をここで過ごしています。

八重尾直さん・真澄さん(白置市)

退職後の生活拠点として再生
釣り好きの八重尾さん夫妻は吹上浜にキス釣りによく来ており、週末に農業と釣りのできるこの地を選びました。「霧島の山育ちで、海に憧れていました。家を見に来てみると広しいし、川と海



に近く景色もいい。すっかり気に入りました」と直さん。宅地約1650平方メートルと、隣接する畑約3000平方メートルを購入しました。建物は築150年以上で裏は崩れかかり、当初は壊して小さな家を新築しようと考えていましたが、専門業者に見せると梁、柱などの構造材は太く、イスノキを使うなどしっかりとした造りで、再生できることが分かりました。「廻船業を営む人が住んでいた、集落を代表するような家を壊すのは地域の人に申し訳ない」と、再生して退職後の生活拠点にしようと決断しました。

ゼロエネルギー住宅を実現

リフォームに当たっては、霧島市隼人町で一人暮らしだった早子さんとの同居や、自分たちの老後を考えてバリアフリーにするなどにも、高い断熱性能や太陽光と太陽熱のダブルソーラーシステム、自然エネルギーを有効利用したパッシブデザインで空調機器をできるだけ利用しないゼロエネルギー住宅(ZEH)を目指しました。建築費のうち165万円は国の「住宅のゼロエネルギー化推進事業」の補助金です。



早子さんが部屋に車椅子で行けるようスロープを設置

空き家バンクって何?

鹿児島県内の自治体では、所有者が空き家(賃貸・売買)を登録し、移住を検討している人に情報提供する空き家情報登録制度「空き家バンク」を設けているところがあります。現在、鹿屋市、薩摩川内市、長島町など9市13町が導入し、ホームページで登録物件を探せます。利用に当たっては自治体に登録する必要があり、交渉・契約は自治体は関与せず、宅建業者が仲介します。



リフォーム補助金を活用

古民家などのリフォームに、補助金制度を設けている自治体があります。鹿児島市は耐震診断、耐震補強、リフォームに要する費用の一部を補助する「安全安心住宅ストック支援事業」、鹿屋市は鹿屋市民が市内の施工業者を利用して個人住宅のリフォームを行う場合に費用の一部を補助する「住宅リフォーム助成事業」などです。各自治体によって補助の対象や金額などの条件が異なり、年度ごとに募集して予算額に達すると締め切られます。県内金融機関では、各自治体と業務連携協定を締結し、空き家対策事業などの対象者に「空き家活用」「移住」「空き家解体」など各種対象ローン商品の金利を割り引くなど、空き家の有効活用、定住促進をサポートしているところもあります。



鶏世話や畑仕事は日々を過ごす

施工者
リフォーム担当の建築工房自然木(鹿児島市) 村田義弘社長



再生前は廃屋同然でしたが、骨太の構造材を生かしながら、暮らし方の希望をお聞きして設計・施工しました。車椅子が利用でき、ゼロエネルギーの住まいづくりを目指しました。農作業や良好なコミュニケーションづくりを考え、馬小屋も有効利用しました。費用をできるだけ抑えるには、まず屋根を見ることが大切。屋根をふき替えるかどうかで金額が大きく変わります。白アリがないかどうかもチェックです。